うえぞだ

上田高等学校関東同窓会・会報

第43号
6月8日
(金曜日)
平成2年
(1990年)

発行—
上田高等学校
関東同窓会事務局
発行人—
会長　小林　郷司（40）
〒101　東京都千代田区神田
錦町3の3（共同ビル新
千代田）小林郷司事務所内
電話　03—252—8801
編集人　柳澤　健（48）
題字は故稲垣征夫氏（14）

年会費納入のお願い

平成2年度の年会費を同封振替用紙にて納入下さい。大会当日（6月26日）受付けでもお預りします。

●年会費　2000円

新役員決定　6月26日㈫に第29回総会

同窓会の原点に立って

総会にも福引きなどの新趣向

関東同窓会の新しい役員が決った。五月二十一日（月）の幹事会で、横山誠之助新会長以下三人の副会長、幹事長などが承認され、新しい活動を開始した。

その最初の取組みが六月二十六日（火）の年次総会である。多くの方の参加を希望している。

新執行部は昨年立ち上げ案日も浅く、まだ細部についての活動方針までは決定していないが、当面次のような考え方を基本として運営したい。

一、同窓会活動の原点に立ち、一人でも多くの人の参加が実現できるよう開かれた同窓会とする。

一、永年にわたって築かれ培われた伝統と成果とを受け継ぎ、これを発展させる。

一、各期ごとの参加はもちろん、運営部OB会、その他各グループの活動も、全体の活動の中で生かしていくことを配慮したい。

特に小林郷司前会長の強調された「古城の門を一度でもくぐった者は皆この同窓生である」という精神に生かし、形式張らず〝膝襖〟の同窓会を目指したい。

どうか皆様一人一人のご意見を気軽に持ち寄っていただき、形成されるよう、ご協力をお願いしたい。

そして何はともあれ、六月二十六日（火）の総会には、元気な顔を見せてください。

普段着の同窓会を

会長　横山誠之助（42）

さる五月二十二日の幹事会にはその手腕力量ともなく、会長の任は、まさに重且つ大であります。ここは、多士済々たる会員の皆様の温いご支援、ご協力により、その責を果たすのみであります。

現時点におきましては、とにもかくにも、短時日の間に新体制を整えて進まねばなりません。

今後の同窓会運営にできましては、まず、あの古城の門をくぐり、茂岡、太田の峰々を仰ぎ、千曲の水に潤いをはせた同窓生、関東地区に在住されている者という共通の会員であることを中心に考えるのは当然です。また、幸いな事に、今回の六八六人の方々の所在が明確になりましたので、今後は各期の在籍名簿の一層の整備により、組織強化を図りたいと考えています。一方、同窓会財政の健全化は現体制にありましても基盤が形成されましたが、まだまだ脆弱であり、このため、歴代の役員の皆様のご努力に対し、通常総会にて値上げをお願いしましたが、幸いな昼の宮方すことなども考えてもらいます。

さらに、同窓会を構成する各期期会の活性化、とくに若手の皆様の推進が必要でありましょう。

会期にいう「この会は会員相互の親睦をはかり、あわせて母校の発展に協力することを目的とする」ことをあらためて思いおこし、幾多の先輩のご努力の結果である関東同窓会の発展のため、力まず気ばらず、全力投球させていただいと存じます。

心臓、ご支援と叱咤激励をお願い申し上げ、就任のご挨拶といたします。

ご恩返し

副会長　小林孝雄（42）

この度伝統ある上田高校関東同窓会の会長を仰せつかり、微力ながらも本会の発展に尽力して参りたい所存であります。平素は同窓会やクラス会にも「無沙汰を重ね、歴代の役員の皆様のご努力に対し、通常総会にて値上げをお願いしましたが、幸いな昼の宮方すことなども考えてもらいます。

さらに、同窓会を構成する各期期会の活性化、とくに若手の皆様の推進が必要でありましょう。

会期にいう「この会は会員相互の親睦をはかり、あわせて母校の発展に協力することを目的とする」ことをあらためて思いおこし、幾多の先輩のご努力の結果である関東同窓会の発展のため、力まず気ばらず、全力投球させていただいと存じます。

心臓、ご支援と叱咤激励をお願い申し上げ、就任のご挨拶といたします。

新たな前進を

副会長　小木曽誠（48）

このたご副会長の一員を務めさせて頂くことになりました。

力量不足でございますが、皆様方のお心温いご協力を拝して、全力投球させて頂く所存であります。何卒よろしくお願いします。

同窓会は、幾多の先輩のご努力により、実に盛沢山なものになりました。まさに全国有数のものだと考えます。

ルギーが、絶えず変革を求め、また、この同窓会も、時代に新たな方向を指し示していきます。同窓会も二つの組織体である以上、当然のことながら活性化と変革は絶えず必要であります。会員が喜んで参加し、相互の親睦と理解の輪を広げ、更にこれを永久に継続させていくことが使命であると思います。これらの三年間、横山新会長を補佐されました、上中のクラス、先輩で兵学校出身者の多くが、この大戦において戦死されました。私は敵后との人達のぶんまで働こうと、常に思い続けました。

昭和二十六年郵政省に入り、昭和三十六年から三年間は外務省に出向、昭和三十九年に呼ばれて日本電気（NEC）に入社、一貫して海外事業に従事し、世界を飛び廻りました。私が国内関係については、無沙汰を続けたのも、一つには海外出張の連続であったためです。

約二十年間に及ぶ海外事業時期になりましたので、今後は、まお若い方にお任せしたいと考えております。

相互の親睦をはかり、あわせて母校の発展に協力することを目的とする」ことをあらためて思いおこし、幾多の先輩のご努力の結果である関東同窓会の発展のため、力まず気ばらず、全力投球させていただいと存じます。

心臓、ご支援と叱咤激励をお願い申し上げ、就任のご挨拶といたします。

ご恩返し

副会長　小林孝雄（42）

この度伝統ある上田高校関東同窓会の会長を仰せつかり、微力ながらも本会の発展に尽力して参りたい所存であります。平素は同窓会やクラス会にも「無沙汰を重ね、歴代の役員の皆様のご努力に対し、通常総会にて値上げをお願いしましたが、幸いな昼の宮方すことなども考えてもらいます。

さらに、同窓会を構成する各期期会の活性化、とくに若手の皆様の推進が必要でありましょう。

会期にいう「この会は会員相互の親睦をはかり、あわせて母校の発展に協力することを目的とする」ことをあらためて思いおこし、幾多の先輩のご努力の結果である関東同窓会の発展のため、力まず気ばらず、全力投球させていただいと存じます。

心臓、ご支援と叱咤激励をお願い申し上げ、就任のご挨拶といたします。

長野県上田高等学校
関東同窓会　第29回総会　御案内

【日時】　6月26日（火）　午後5時30分　受付開始
　　午後6時　開会　（9時閉会予定）

【会場】　如水会館　千代田区一ツ橋2－1－1
　　電話　(03) 261－1102(代)

【交通】　1．神保町下車歩3分　（都営三田線・新宿線）
　　2．竹　橋下車歩4分　（営団・東西線）
　　3．首都高速道路　代官町・神田橋インターチェンジ　下車

【会費】　一　般　6,000円
　　学生(85～88期)　無　料

【総　会　次　第】

総合司会・幹　事　長　馬場武彦(54)
司　会・副幹事長　池田松子(52)　倉島彰(54)　池内紀雄(56)

第1部　定期総会
（6時～6時40分）

1、開会の辞　副会長　柳澤　崚(44.5)
2、あいさつ　会　長　小林　郷司　(40)
3、来賓祝辞　同窓会理事長　金子八郎(39)　学　校　長　依田恒雄(48)
4、議　事　役員改選　事業報告　幹事長　山崎延秋(48)　会計報告　会計長　斉藤好一(41)　監査報告　監　事　土屋　学(31)　平成2年度事業計画　幹事長　馬場武彦(54)　平成2年度予算案　会計長　堀内茂雄(44-4)
5、閉会の辞　副会長　生島信夫(41)

第2部　懇親会
（6時50分～8時50分）

1、開会の辞　副会長　小林孝雄(42)
2、歓迎のあいさつ　会　長　横山誠之助(42)
3、来賓紹介　副会長　山崎延秋(48)
4、来賓祝辞
5、新卒業生(88期)　紹介
6、乾　杯　—懇親宴会—
7、万歳三唱
8、閉会の辞　副会長　小木曽誠(48)

上田高等学校
関東同窓会

1990年版
会員名簿刊

●長く刊行が待たれていた「関東同窓会　会員名簿」（1990、平成2年版）が、ようやくできあがりました。
●新名簿はB5判、総頁数330頁の堂々たる作りで、第6回～第80回の卒業生のうち、関東地区在住者、約5,000名の住所・氏名・電話番号・勤務先（職業）などが収録されています。
●巻末には、各クラブOB会、通学グループ、同好会の会員名簿も併載されており、会員相互の連絡にいっそう役立つことと思います。座右においてご活用下さい。

判型—B5判、330ページ●
内容—会員名簿／OB会・グループ名簿他●
領布方法—会費納入者には無料配布●
それ以外の会員・関係者　3,000円●

申込先—〒101　東京都千代田区神田錦冶町3—3
（共同ビル新千代田）
小林郷司事務所

いっそうの活性化を願って

会員のご協力に深謝

前会長　小林　郷司 ⑷⓪

爽かな青葉若葉も日毎に緑の濃さを増し、天地躍動の季節を迎えているが、伝統と名誉ある上田高校関東同窓会会長の席を汚させて戴いたのも丁度三年前の六月であった。

この度、第十代の関東同窓会長として横山誠之助君をご推薦申し上げ、相談役会及び幹事会のご承認を戴いた。横山新会長以下新役員の皆さんは、小林体制の至らざる点を正し、同窓会を堅実に前進させて戴けるものと確信すると共に、心から期待をしている。

会長に就任以来、その任が如何に重且大であるかを身を以ってひしひしと思い知らされ、副会長在任六年間とは異なった、文字通り緊張の連続の三年間であった。

浅学非才の身を以って、曲りなりにもここまで辿りついたのは偏に会員の皆様の暖かいご支援の賜物であることは論を俟たないが、一方黙々と会務を支えて下さった年度幹事、委員、役員の皆様に対しては言い尽くせない感謝の気持で一杯である。

関東同窓会は事務局となるべき部屋がない。専門の事務員もいらない。その間にあって、計画の立案、諸々の連絡通信事務、同僚高校及び県同窓連との交流及び行事への参加、会報の原稿依頼、編集、校正、広告の依頼、振替貯金、銀行預金の整理記帳、日常の金銭出納業務の会計処理、次いで年二回の会報及び今回の名簿の発送業務等々、約五千名の会員を擁しての日常業務は結構大変な事務量であることは事実である。

これ等の会務に精励されている役員さん方のその真摯な態度は、母校愛の発露とは云い乍ら、人の胸をうたないではおかなかった。改めて衷心よりお礼申し上げる次第である。

顧りみるとこの三年間は、会の活動内容としては通常の何倍にも匹敵するであろう。最初に三十年振りの甲子園出場、十数年振りのサッカーの全国大会出場、十三年振りの名簿発行等枚挙に暇がないが、それだけに反面充実した期間といえるであろう。

この貴重な好機に、会員の皆様のご期待に沿えなかった面が多々あろうかと思うが、それは総て会長である小生の不徳の致すところであって、心からお詫びを申し上げる。

会長を辞するに当って、過ぎ来し三年を顧みる時、内心忸怩たるものがあるものの、自分なりに全力投球したとの思いもあり、複雑な心境である。

限りない愛情を以って我が母校上田高校及び関東同窓会の弥栄と会員の皆様のご多幸とを心から祈念申し上げる次第である。

長い間のご協力、有難うございました。

〝我が青春　偲ぶ城跡　こぶし咲く〟

感懐

前副会長　生島　信夫 ⑷①

同窓会での最大の収穫はすばらしい会員との邂逅であり発見であった。何れも魅力ある人材である。ここに三年間にわたりご懇切なご教示とご協力を頂いた先輩の方々、役員、委員、幹事、会員一人ひとりの皆様に心からなる御礼を申し上げる。

それにつけても小林郷司会長のリーダーシップには感銘を受ける。常に率先垂範、よりよい会の創造を標榜されている。折にふれ私たちに力説されたことは「古城の門を一日でも出入りしたものはみな会員である。会員は自らすすんでいろいろな機会を生かして会の発展に尽くすことが求められている。限られた少数の人のみが会のために骨を折るのではなく、会員それぞれが情熱と英知と創意とをもって会に参加してほしい。そして参加して本当によかったといえるような会にしてほしい」。そこには並々ならぬ決意が披瀝されており共感を覚える。その理念によって献身される姿がいまも鮮明に浮かんでくる。激職にありながら懸命に会務を遂行される責任感のつよさに胸をうたれる。

ふりかえって見る。活動の団結を固めたのは、なんといっても三十年振りの甲子園出場である。同窓会は燃えた。「誉れのかぶと我得たり」と檄を飛ばした。募金に、応援に数多くの人が自発的に参加した。当時、後援会関東支部募金委員長としてその任にあたった。つぎからつぎへと送られてくる浄財に感動しつつ、「わが青春の心のふるさと上中、松尾、上田高校」に学んでよかったという母校愛の結晶が、何かに役立ててほしいという連帯感の発露が事実として示されたのをまのあたりに見た。六文銭がアルプススタンドを埋め、全国に信州健児の意気と矜持を発揮することができたのも、皆様のご声援によるものである。

日ごろから考えていることである。同窓会の各自に与える影響はきわめて大きいものがある。その一つに自己の生き方をささえているということ、その二は激しく変わる世の中にあって、自己の心の拠りどころになっているということである。まさに人生への応援歌といえる。同窓会にいま求められているものは何かまず歴史的な視点から、そして、時代の流れ、さらにはいまの社会が望んでいるものは何か、会員それぞれが考察してみる必要があるのではないだろうか。

つぎは、人の世の機縁について普遍されていることである。「人は縁に出会って縁に気づかず」「人は縁に気づいて縁を生かさず」「人は袖すりおうた縁をも生かす」人との縁を大切にし自己の充実をはかるよう自身に問うている。

これからも人間性を豊かにするために、人間としての原点回復の心を忘れることなくその原点の一つに同志、同窓のあることを銘記したい。

関東同窓会の一層の発展を念願している。

感謝

前副会長　柳澤　廣（44―5）

わざわざ軽井沢から・・・柔道部の声もあったろうが、以来兄事する小林郷司先輩が会長に就任されるとなれば「これはもう何はさておきお手伝いしないではいられない」境地であり、かっていろいろの出会いがあった皆さんとの再会も、上京を促す魅力であった。

セツコウよく出かけたものの、伝統ある当会副会長としては最初の意気込みに比べ、思うように貢献出来ず汗顔のいたりである。

無事に務め終えたのは、山崎幹事長をはじめ幹事の皆さんの協心戮力のためと心から深謝を申し上げる。

特記すべきは事務所を設置しての活動であり、「古城の門を一日でも出入りしたものはみな会員である」として年会費納入者のみの組織を拡大にともなって母校の同窓会と連絡を密にして交流を深め、さらに十三年ぶりに成し遂げた独自の名簿発行である。

加えて、驚天動地と云うのは失礼か？　野球部とサッカー部の全国大会への出場であり、小林会長を中心に燃えに燃えた日もあった。

三年間の我が日記をひもとくと、「事務局との電話しきりなり」の文字が多くの頁に目につくのもなつかしい思い出である。

このたびの交代で長い会歴に輝く横山誠之助（42）先輩が新会長として運営にあたられることは、伝統が見事に引継がれるものと欣喜雀躍して拍手をおくるものである。

終りに当り会のますますの躍進と、会員及びそのご家族のご多幸を祈りつゝ、感謝の念を新にして退任のご挨拶とする。

新役員幹事

役職	氏名
会長	横山誠之助 ⑷②
副会長	小林　孝雄 ⑷②　山崎　延秋 ⑷⑧　小木曽　誠 ⑷⑧
幹事長	馬場　武彦 ⑸④
副幹事長	池田　松子 ⑸②　倉島　彰 ⑸④　池内　紀雄 ⑸⑥　宮川　克彦 ⑸⑧
会計長	堀内　茂雄 ⑷④
副会計長	柳澤　忠 ⑸②
監事	韮澤　嘉雄 ⑶⑥　飯塚　哲夫 ⑷①
相談役	島田　次郎 ⑵①　大森　頼雄 ⑵③　馬場　長市 ⑵⑤　坂井　実雄 ⑵⑧　矢島　五郎 ⑶①　神野　勝男 ⑶⑥　小林　郷司 ⑷⓪

同窓会生の交流を強め、新しい活力を作り出そう

新役員・事業計画を承認

五月二十一日・幹事会

任期満了にともなう役員改選についてを主要テーマとした幹事会は、去る五月二十一日（月）午後六時半から健保会館で開催された。

挨拶に立った小林会長は三年間の任期を振り返って、会員の皆様の力をお借りして職務を果させて頂いたと感謝の言葉をくり返し述べた。

会長職の重責については体験して初めて判ったとその心情を吐露された上で、後継会長に横山誠之助(42)氏を指名した。

出席した幹事全員が注目する中で横山氏は、小林会長の三年間の歩みを回顧しながら、その偉業を讃えると同時に、新会長として自然体の中にも頑張りたいと力強く決意を述べられた。

幹事全員の拍子の中で現・新会長の二人は固い握手を交して、こゝに第10代関東同窓会長は横山誠之助氏に決定した。

矢島相談役から小林会長の三年間にわたるご労苦に対しての謝辞と、横山新会長に対する激励の言葉があった。

横山新会長は役員人事について別掲の通り発表し、これについても幹事会の承認を得た。

名簿刊行について原嶋佐吉（44―5）副委員長から経過説明が行なわれた。十三年振りに発刊される名簿はB5版、330頁からなり、ライトグリーンの美しい表紙で出来ている。会費の納入者に無料配布され、また広告の出稿者にも各期を通して配られる。その他の希望者には一冊三千円（送料込み）と発表された。

山崎幹事長から平成元年度の事業報告があり、斎藤会計長から収支決算について説明があった。さらに平成二年度の事業計画が馬場武彦(54)新幹事長から報告された。堀内茂雄（44―4）新会計長から収支予算案が発表された。その中で会報〝うえだ〟の発行は年一回とする旨の説明があった。名簿の発行にともない会員から広告の出費高が多かったので会報広告の負担の軽減を計りたいと云うのである。

第29回会員総会は6月26日（火）如水会館で開催されることに決定した。総会の運営について30期、40期、50期、60期代の中から実行委員を選定して当ることになった。

百周年を目指して

同窓会理事長　金子　八郎 ⑶⑨

去る五月十九日、百周年を目指して上田高校同窓会は一五七名というかつてない大勢のご参加を戴き、今年度の代議員会を開催し、必要な事項をご審議頂きました。この席で、小林前会長さんからご祝辞の一編として貴会の最近の活発なご活動状況をご説明頂き、出席者一同まことに嬉しく拝聴させて頂きました。

母校が長野中学から独立して長野県立上田中学校として発足したのが一九〇〇年ですので、今年は九十周年にあたります。これを記念してどんな行事を行うべきかについて、数次にわたり理事会を開催し、慎重に審議した結果、十年先の百周年を考慮し、なるべく内輪なものにしようということに決定しました。代議員会でご承認頂きました記念事業については、七月上旬発行予定の会報でお報らせしますが、十月二十日に記念式典を挙行することにしておりますので、今からご予定頂き、ご出席くださいますようお願いします。

また記念事業実施のための資金として同窓生の皆さんに一、八〇〇万円の募金をお願いすることも決定しましたので、近く代議員各位が中心となり、卒業期別にご依頼があるものと存じますが、何卒よろしくご協力賜わりますようお願いします。

母校だより

県下最大校に

校長　依田　恒雄 ⑷⑧

新緑が信州の野山にもえている今日このごろ、上田高等学校関東同窓会長小林郷司殿をはじめ同窓生各位におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のことゝご推察申し上げ、心からお慶び申し上げます。

日頃、母校の教育推進のために、物心両面にわたり多大なご支援ご指導をいただいておりますことに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

去る四月一日付をもちまして、図らずも独立以来九十年にわたる輝かしい歴史と伝統を誇る母校に勤務を命ぜられ、その責任の重さを自覚するとき、身の引きしまる思いで着任いたしたところでございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

「古城の門をいで入りて、不動の心山に見る」とある校歌の一節を口ずさみつつ、校門の左右を見わたせば、本校の今日までの隆昌発展を象徴するかのように、各種の樹木が力強く林立し、不動の校門との調和を保っております。

そこには明治三十三年（一九〇〇年）に独立以来の長い年月を積み上げてきた、各時代の先輩の尊い営みと汗や涙が秘められていることでしょう。

こうして本校は九十年におよぶ長い歴史の数々を校地のすみずみまで浸透させて、歴史の貴重な一ページを担いつつある在校生を育むための道場としての役割を果してくれております。

本年、長野県は生徒数急増期のピークを迎えており、全日制十一学級四九五名、定時制一学級二十七名が入学いたしまして、全日定時の在籍生徒数の合計は一四九二名という県下で随一の大規模校となっております。

しかしながら、それに伴う教育の課題も山積しておりますが、教職員が一体となって日々の真剣な教育活動を積み重ねつつ解決を図ることにより、来るべき二十一世紀に対応しうる、新たな校風や伝統を築きあげることができるのではないかと考えております。

急激な社会情勢の変化に対応し、国際感覚を身につけ、創造性に富み、人間性豊かで、社会の一員として責任を果たすための自信と忍耐力のある人材の育成に、一層努力する所存でございますので、同窓生各位におかれましては、今後一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、上田高等学校関東同窓会の益々のご発展と同窓生各位のご清栄を祈念申し上げます。

生徒会運動部

最近のクラブ活動は大変出費が嵩む。特に運動クラブは大変なものである。大会への参加・遠征試合・着るもの・用具等々……クラブによって差はあるが多いクラブでは年間個人負担が十万円を越えるところもある。現在上田高校の生徒会費は年額一人五五〇〇円、生徒会の総予算が約一千万円、運動クラブの活動費として一クラブ平均十万円であるが用具代にも事欠く状況である。OB会等から援助を受けているのは二・三のクラブであるが、自己負担無しという訳にはいかない。自分の好きなことをするのだから金がかかるのもしかたないが、金もかけなければ強くならないというのもクラブ活動の一面である。

今年も東信大会が済み上位になったクラブは県大会に出場するわけであるが、金をかけずに良い成績を収めて欲しいと虫のいいことを考えている。（生徒会係　神津和美）

進路指導

今年は国公立大の一次入試として、一部私大を含めた入試センター試験（新テスト）の実施元年にあたり、その成果が気になるところであった。加えて昨年から続く連続と分離分割のダブル受験方式の導入によって、その形態、内容とも受験の様相をきわめて多様なものとし、同時に百五十万人余のかってない大量受験が、国公私立にわたって各大学をいっそう狭き門とした。こうした新たな局面を迎えた受験生諸君が、充実した基礎的な学力のバランスと同時に、各個人の持つ独自性（得意科目の伸長）を求められた年であったと言える。本校現役受験生をみると、延べ合格数は、国立大七九（九八）、公立大一四（二）、私立一九八（一五八）、短大六〇（六四）【（　）内は昨年数】であり、国立大にやや苦戦を強いられたものの、これら全国的な趨勢を勘案するとき、ひとまず本校生の善戦が評価できそうだ。この多様化、のき並の難化という入試状況は、来春さらに強められる見通しであり、本校生がその荒波をいかに乗り切るか、毎日の着実な学習が期待されるところである。」（進路指導　宮沢肇）

生徒会文化部

文化部の活動が全体に沈滞気味であることは否めない。毎年各班は松尾祭学芸の部を節目として活動を展開している。本年は学芸の部が夏休み前になり二回目、クラス数も三十一クラスになり初めてのものとなる。又、生徒会では九十周年記念展示等も考慮中である。地味な活動の中で発表・展示に力を注ぐ英語班、演劇班、書道班、美術班、文芸班、天文班、茶道班等が目立つ。音楽関係では吹奏楽班が県下有数の活動内容、実績を持ち、昨年度に続き、各種大会への出場を目指し活動を継続中である。囲碁将棋班は全国大会への出場実績を持ち、特に女子は十一年連続出場であった。班活動が形骸化する風潮の中でどの班も、毎日の着実な研究活動の積み重ねが望まれる。（生徒会係　吉原弘隆）

平成元年度決算報告書（案）

1.4.1～2.3.31　単位円、△は不足

収入の部

科目	予算	決算	過不足
前期繰越収支差額	309,535	1,648,603	1,339,068
大会費収入	1,800,000	1,616,000	△ 184,000
会報広告料	900,000	1,245,000	345,000
年会費収入	2,500,000	2,854,000	354,000
雑収入	50,000	50,206	206
受取利息		7,795	7,795
合計	5,559,535	7,421,604	1,862,069

支出の部

科目	予算	決算	過不足
大会費	1,900,000	1,656,574	△ 243,426
会報費	1,150,000	1,486,704	336,704
事務費	400,000	417,648	17,648
通信費	700,000	649,055	△ 50,945
交通費	200,000	140,480	△ 59,520
会議費	300,000	233,504	△ 66,496
渉外費	300,000	258,000	△ 42,000
一般印刷費	150,000	77,344	△ 72,656
雑費	50,000	27,342	△ 22,658
予備費	200,000	0	△ 200,000
次期繰越収支差額	209,535	2,474,953	2,265,418
合計	5,559,535	7,421,604	1,862,069

平成２年度予算（案）

2.4.1～3.3.31　単位円

収入の部

科目	金額
前期繰越収支差額	209,535
大会費収入	1,500,000
会報広告料	500,000
年会費収入	2,400,000
雑収入	50,000
合計	4,659,535

支出の部

科目	金額
大会費	1,600,000
会報費	500,000
事務費	400,000
通信費	300,000
交通費	200,000
会議費	300,000
渉外費	300,000
印刷費	200,000
業務費	100,000
雑費	100,000
予備費	200,000
次期繰越収支差額	459,535
合計	4,659,535

基金特別勘定

2.3.31現在　単位円

科目	前期繰越	増加	減少	期末残高
運営基金	5,240,000	610,000	0	5,850,000
基金利息	524,845	236,099	500,206	260,738
合計	5,764,845	846,099	500,206	6,110,738

安田信託銀行神田支店
定期預金残高　5,850,000
普通預金残高　260,738
合計　6,110,738

名簿特別勘定

2.3.31現在　単位円

収入の部		支出の部	
広告収入	4,545,000	編集費	123,190
		印刷費	3,488,233
		発送費	800,000
		剰余金	133,577
合計	4,545,000	合計	4,545,000

いっそうの活性化を

副会長（前幹事長）　山崎　延秋 ⑷⑧

昭和から平成と移り変った、その中で関東同窓会も、小林会長のもとで三年間が過ぎた。この間いろいろの事があったが夢中で過したことの積み重ねであった。

幹事長としての職務が果せたか否かと考える時、皆様の絶大なるご支援だけが想い浮んでくる。小林会長はじめ役員は勿論のこと、各委員長と委員の方々、とりわけ各期の委員のご協力の数々が想い起され、こゝに改めてお礼を申し上げる。

野球部の甲子園出場という三十年振りの快挙があった。応援の募金も目標達成したのも一重に会員各位のご協力によるもの。東京からバスを仕立て二百名の会員と家族の人達の応援団が結成された。

会報〝うえだ〟の発行も6号に及び、その都度各担当期の委員は同期生に呼びかけて広告を出稿して頂いた。

毎年の大会には本部役員をはじめ母校の校長先生と関連の先生方にご足労を頂いた。その度に信州の香りが関東同窓会に持ち込まれたが、ついに名物の〝お焼き〟（柳沢廣副会長の土産）が会場で配られるようになった。

幸にも横山新会長のもと新幹事長としてこれまで副幹事長としてて会務に携ってきた馬場武彦(54)君にバトンタッチすることになった。今までの経緯を承知されており、今後のあり方について存分に敏腕を発揮して頂けることを期待して、後事を託したい。最後に、数多くの皆様方の永年にわたるご指導とご支援に重ねてお礼を申し上げる。

全力投球

幹事長　馬場　武彦 ⑸④

上田高校関東同窓会の皆様増々ご活躍の事とお慶び申し上げます。

三年前、副幹事長に任じられ、一年目に母校野球部の甲子園出場、そして三年目は名簿の発行と、なかなか仕事の多かった事を振り返って、山崎幹事長はじめ諸先輩役員の皆様方と無事勤めさせていたゞき、ほっとする間もなく、全く突然幹事長を仰せつかり、恐縮と困惑の思いであります。

しかし、これも何かのご縁ではと、又三年間、今度は幹事長をさせていたゞくに当りご挨拶を申し上げたいと思います。

小林郷司会長のご努力で、四千六百余名の会員が把握出来、十三年振りに名簿の発行も成し得て、関東同窓会の基礎は非常に固まって来ました。しかし乍ら年会費納入者の拡大、大会出席者の増員等、今後の課題は山積しております。

野球部をはじめとして、各運動部のOB会、私も永年携わって来た松尾倶楽部とか、各種の会合が同窓会と相関々係にあって、大きな力となって同窓会を支えている事は確かな事実であります。

同窓会は年一回の大会ですが、各グループの会合は結構頻繁に行なわれています。その様な会に参加して、自分の仕事とは別の世界の様子を見ては如何でしょうか。

山崎延秋前幹事長のように完璧な配慮と、的確な運営をされた名幹事長とは程遠いかも知れませんが、横山誠之助新会長を、役員の皆様と協力して盛り立て、栄ある上田高校関東同窓会発展のため、会員の皆様の絶大なご支援をよろしくお願いし、新任のご挨拶とさせて戴きます。

全員の拍手の中、がっちりと握手をする小林（右）、横山の新旧会長

新名簿の活用を

名簿副委員長　原嶋　佐吉（44―5）

名簿の発行については各期幹事を選衝して、その任に当って頂くことが第一の課題で [illegible] らの名簿や広告は、幹事や世話役の方々の理解に助けられて、比較的スムーズに集約さ [illegible] ては会報の柳澤 [illegible] 林秀芳委員が多 [illegible] くりして頑張っ [illegible] 、業務の畠山寛 [illegible] 細部にわたって [illegible] 引き受けてもら [illegible] 秋幹事長はまと [illegible] 時も中心となり [illegible] た。

[illegible] 長のモットーで [illegible] 整備〟はそれぞ [illegible] 達の協力を得て [illegible] とに改めてお礼 [illegible] 第である。

[illegible] る。この名簿が [illegible] 新会長に珠玉の [illegible] れて同窓会の運 [illegible] 性化され、会員 [illegible] 役立つことを強 [illegible] ある。

◎新幹事一覧

- 13　志摩亮平
- 14　荻原貞雄
- 16　宮川義治
- 18　中沢恭太郎
- 21　島田次郎
- 23　大森頼雄
- 24　依田赳夫　石井操
- 25　馬場長市　石井義雄
- 26　上田政男　倉島直喜
- 28　坂井実雄
- 29　井村薫　鎌原義則　六川善一　坂田敏雄
- 30　原相模　峯村文人　山岸一一　柳沢胖　赤松進
- 31　玉井康彦　沢田光雄　寺田直　土屋学　矢島五郎
- 32　中村礼三　清水信　永井義一
- 34　砂田昌寿
- 35　渋沢元則　滝沢正　石倉謙一　城田賢　大井卓雄
- 36　神野勝男　韮沢嘉雄　武捨久男　山本五助　北村季夫
- 37　岡清助　新井邦夫　浅野恭平　関邦雄
- 38　清水幾男　矢島勇雄
- 39　長藤勝　渋沢芳三　菊地博　高橋順　山下英晃
- 40　小林郷司　丸山英一　柳沢澄男　荻原愈　井上忠雄　境沢正人　児玉安彦
- 41　宮下俊夫　田中稔治　斉藤好一　成沢淳　生島信夫
- 42　横山誠之助　大滝善夫　高橋砥市
- 43　松園裕　上野敏雄　佐々木三夫　中沢信　梅田実　小林勇
- 44―5　原嶋佐吉　北沢守　甲田悌三　永井巌　柳沢廣
- 44―4　星野賢造　高橋昭平　成田澄男　山本勝　堀内茂雄　峰村昭三
- 45　春原新作
- 46　春日敦美　神林常視　三井周　小西幸男
- 47　三井芳郎　沓掛元砥　沢木敬郎　小山邦朋　加藤文郎　井出周利　大川悦生　土屋博
- 48　清水卓　堀内惇　柳沢健　山崎延秋　牧内寛　村上信三　中沢利雄　小木曽誠
- 49　遠山益男　鈴木武夫　桜井寛幸
- 50　五十嵐明迪
- 51　西野明　村田寛　永井洋司　保坂利勝
- 52　上原佳和　青柳位紗男　柳沢忠　柴田正人
- 53　金子節子　須田武久　坂内正智
- 54　小市則夫　馬場武彦　有賀俊雄　倉島彰　桜井敬　市河富弘　寺島重暉
- 55　堀内良幸
- 56　渡辺善国　瀬下昌孝　金井七郎　藤森宣和　増沢年男　池内紀雄
- 57　岡村潔
- 58　赤池三男　奥村昌機　大橋弘　林嘉市
- 59　桜井資悦
- 60　松井石根　小林秀芳
- 61　三井文人
- 62　岩井重一　秋田勇　田島善光　諸岡健児　小泉邦夫
- 63　川村恭司
- 64　清水淳郎　塚田高明
- 66　北沢英男
- 67　山崎哲
- 68　小林照明　碓田茂　土屋耕太郎
- 69　吉村邦彦　古畑克己
- 71　小林一輝
- 74　坂口洋三
- 75　横田光幸
- 77　坂田正明
- 78　服部彰夫
- 80　今井隆志　村上勇介

年会費納入者のお名前

平成2年3月31日現在

平成元年度以降の年会費納入済の会員の氏名は次の通りです。

お名前の下の数字は年会費納入済年度です。

なお、25期以前の大先輩の方々からは年会費を頂かないことになっております。

また、左記にお名前のない方及び今年度分が未納の方はなるべく早くお納め下さい。

順不同、敬称略。ご了承下さい。

【26期】10人 上田政男2 工藤一三1 倉島直喜4 小泉寿3 小山正徳4 後藤富平2 坂田隆雄3 滝沢伝1 西沢信2 馬場武1

【27期】2人 春日省吾3 清水俊一2

【28期】6人 岡田重一2 小山陽太郎1 坂井実雄1 滝沢幸司3 田中五郎1 松野輝彦2

【29期】11人 井村薫5 岩下美千穂11 鎌原義則1 別所洋順7 町田尚久2 武藤矩靖3 六川善一1 滝沢敏次2 橋詰二郎3 宮入武夫1 坂田敏雄1

【30期】12人 赤松暹4 沓掛友彦1 斎藤清1 塩沢丑太郎4 田中有一1 成沢省三9 西沢秀暁12 針塚正樹8 峰村文人4 柳沢胖3 柳田茂雄1 山岸一二3

【31期】17人 赤沼進吾3 安居院実3 加藤三郎6 小宮山庄三12 小山一平16 沢田光雄4 玉井康彦2 土屋学5 寺田直2 原理3 松島三男3 宮入秀夫2 宮坂三吉4 矢島五郎2 柳達雄9 山崎渉7 窪田寛治2

【32期】20人 浅井敦2 池島雄三2 石井満明7 市川三男2 児玉浩2 笹川徹2 清水信1 芹沢守利2 外山正博1 土屋勉1 永井義一2 中村礼三3 林重夫2 平尾隆郎5 福嶋軍治12 水科正1 水野利男8 宮崎光邦1 村上寅雄1 渡辺綱男1

【33期】11人 朝日仁一4 北沢茂1 佐藤三義4 佐藤佳良2 土屋利一1 土屋二三男3 中沢亮太5 吉田竜二1 森五郎2 五十嵐八郎1 石井正六2

【34期】26人 金井忠義2 神田精夫2 工藤善正2 桜井直人5 島津俊治1 清水好夫1 砂田昌寿4 鷹野富士雄1 高木勝繁3 高橋五大2 高見沢正3 土屋信夫1 林克己1 松井正直2 真峯秀雄1 宮沢美智雄2 宮下重一2 若林彦六2 横関真藤2 荒井隆雄1 佐藤祐三1 佐藤芳寿2 桜井直人5 滝沢元助2 多田貞治1 柳沢太郎1

【35期】19人 石井暢1 石倉謙一2 宇野智1 大井卓雄7 小宮山隆三1 神津勝時1 佐藤義仲1 渋沢元則7 清水彰3 白井速雄6 白鳥繁3 成田賢3 関輝雄2 堀内功8 滝沢正8 宮坂四雄7 渡辺達也6 清水等1 中山順蔵3

【36期】18人 伊藤稔寿郎3 尾崎毅1 掛川重義2 北村季夫1 小林正登3 清水谷寺尚2 神野勝男3 高遠弥六3 田村和義5 田中良夫1 田中六郎2 韮沢嘉雄1 深井安児夫2 松島久3 松野正2 武捨久雄2 山本五助1 滝沢克巳7

【37期】20人 浅野恭平2 新井邦夫5 岩田茂樹1 内田重喜2 岡清助3 風見和泉2 坂本史郎1 清水志郎1 下村達男1 関邦雄2 田中藤平3 永田末吉2 根津勇1 八田秀7 原田安雄1 古畑徳宝1 柳田誠2 横田地弘3 翠川久1 大塚次郎2

【38期】17人 阿曽英二5 荒木広之2 小林三郎2 小林直樹3 清水幾男2 清水信吾 清水則夫3 高木弘行8 滝沢得一郎1 田中康雄5 塚田裕三2 峯村秀男2 宮原敦1 矢島勇雄1 由井虎史2 岩下運雄1 甲田英三郎5

【39期】10人 阿部博3 出浦新一1 大塚唯男1 菊地博3 竹中幸彦2 永田幹夫2 長藤勝2 西沢和臣7 橋詰亨5 横関嘉伸3

【40期】33人 石木林13 井本公一1 今井甲子雄5 上野豊重2 井上忠雄2 荻原愈2 荻原竜夫1 小林郷司1 小林博4 小林政治2 小山信平2 児玉安彦2 大塚今朝信3 佐藤麟也3 清水恭平1 唐沢正巳2 鈴木一郎1 田玉清次4 長谷川和音4 丸山英一9 森山博司6 矢島信一2 柳沢晴夫5 山本周三7 吉池一郎3 吉田節生7 吉田光輝3 米沢敏8 渡辺久雄4 井上忠雄1 竹内武弥2 武重三郎1 柳沢喜三郎1

【41期】29人 飯塚哲夫1 伊田幸雄2 上原泰正13 生島信夫2 金沢光男1 川尻悦三3 甲田睿1 斎藤豊2 斎藤好一3 斎藤義臣1 清水栄一4 正村吉徳5 白鳥武3 高橋一行2 高森淳5 田口善孝1 田中稔治3 土屋勉5 中沢全一1 藤沢正吉6 古松彰3 古谷達孝3 広瀬洋1 松崎五郎2 宮下俊夫2 依田弘夫1 山田富夫1 竹内義人2 柳沢富雄1

【42期】29人 青山幸夫 浅野敏正3 飯島叔男5 今井光男2 岩下実2 大滝善夫2 折田義雄2 栗田裕夫5 小林孝雄1 小山成安1 佐藤成男4 佐藤良1 摺田巌3 高野佐太夫8 田村滋雅3 遠山了二3 永井重弘2 橋本英典6 堀内彬明1 真山勝美1 宮坂民樹2 宮本武3 柳原寿一1 横田種雄2 横山誠之助1 横山十四男5 六川英夫2 伊藤惇5 堀内博一5

【43期】23人 飯島久生2 上野敏雄3 梅田実1 金子太吉3 小林朝衛6 小山栄治1 小山弘平1 佐々木三夫5 清水哲夫5 田玉重陽3 田中重樹3 土屋啓3 手塚慶次郎5 中沢信8 中沢幸一2 平林直1 古畑時生1 保刈大治3 松園裕3 向山光男1 両沢卓蔵4 清水雅夫2 横沢昭安2

【44・5期】27人 石井克巳1 内海辰三2 大塚昭二1 大塚寿3 岡野森太郎1 生島和幸5 北沢守7 久保田昭寿1 甲田悼三2 古平照男1 小林義徳2 小山厚三郎2 篠原保1 武井国憲4 竹越教1 手塚敬一2 土屋孝2 永井巌3 中島和夫2 原嶋佐吉7 牧内繁基1 宮下忠二1 柳沢広1 生島和幸2 児玉文夫5 工藤周介6 田村庸三1

【44・4期】24人 井出正人4 荻原隆2 黒岩喜四郎1 小林一雄1 児玉志郎2 斉藤栄一1 高橋昭平1 竹内秀彦6 手塚栄三郎1 成田澄男1 堀内茂雄1 峯村昭三5 宮入正一2 矢嶋隆4 柳沢啓一1 山極栄司2 山本勝1 山本太一3 上原修5 市川俊夫5 小泉十利1 小山智也1 所昭三2 滝沢源平1 深井清久2

【45期】6人 児玉和巳3 高藤基2 富岡輝一4 森茂8 山辺力1 春原新作

【46期】22人 有賀治1 臼田今朝雄2 春日敦美1 神林常視3 工藤忠房1 甲田礼治2 佐藤信2 関口清登1 塩沢昭一2 清水巻郎4 滝沢敦美1 筑土秀玄2 中島正夫4 三井周3 宮沢寿4 水沢博1 六川真澄6 吉村賢治1 若林進1 石川千春3 相沢忠一1 丸山浩一2

【47期】42人 飯田久夫3 伊藤次男1 上野平八郎1 上原享4 加藤文郎2 金子宏2 沓掛元砥3 窪田富男3 小山和弥2 小山邦朋2 小山金路1 笹井博8 佐藤一郎1 桜木浩吉2 佐藤稔2 沢木敬郎9 渋沢孝輔8 清水恵三3 関本秀治6 高見沢丈夫1 滝沢七郎3 田沢徹2 土屋幸雄5 土屋博3 中村義夫2 西沢祥平1 花村義男1 馬場善一1 牧内操3 丸山栄一5 三浦嘉治4 三井芳郎1 水野純1 宮崎博文2 宮原俊雄4 山岸五郎3 山崎繁広1 若林広一5 清宮栄市1 深井明爾 松本文彰4 宮嶋良造2

【48期】61人 相田俊一1 甘利尚人3 伊藤正明2 浦田光雄3 臼田誠人1 大角栄一2 大平暁2 小木曽誠1 大日向政猛2 柿崎真吾2 掛川欣也1 川上道輔3 桐山博光4 君島今朝人3 小林啓之介5 小林富士雄1 小林芳彦2 佐藤尚1 篠原泰司2 清水真吾2 清水卓3 清水雄司2 城下栄三郎4 春原寛8 高柳直樹3 竹内恵三1 竹内元幸2 竹花源内7 田中克巳2 田原敬2 田村貞夫6 寺沢明6 中沢清男3 中沢利雄1 中村哲治3 西沢章夫2 畠山寛1 古畑正明2 堀内惇2 堀内道夫3 牧内清1 松本守弘2 宮沢英人1 宮山栄二7 宮沢武夫1 山極喜郎1 山崎延秋1 和田裕1 堀内哲郎3 宮入寿治4 坂梨庵1 土屋亮13 高柳英治5 萩原達夫1 峯村千徳10 宮坂啓象2 横田正一4 吉本和男2

【49期】55人 芦田純4 新井通夫1 飯島重1 池田芳彦2 石井智憲2 岩瀬一夫2 大石和夫2 柿崎泰雄1 川本豊7 北沢昌永5 久保利夫2 唐沢昭雄1 上野秀和4 小林斉之介2 小林喜六2 小林一郷1 坂田信雄2 清水茂雄1 鈴木一彦2 武井春雄1 滝沢朗2 滝沢栄5 竹重信幸2 竜岡桜1 田中良尊3 田村和男2 遠山益男2 中沢重夫4 西野入利生1 原猛5 原行明2 花岡喜2 平林潔1 藤原実2 堀内貢次1 前田芳造4 牧内泰道3 松本初男1 町田健一1 宮坂博5 山浦健造3 山岸方亀男3 山岸光臣2 依田郁男1 松岡秀夫1 青木喜久弥2 尾和彰4 雨池昇1 桑原洋助5 桜井寛幸1 島津隆次1 土屋正1 高野郁雄1 堀内吉人1 宮下彬英5

【50期】47人 飯島圭一5 五十嵐明迪1 石井一郎5 石井敬二1 大塚文芳1 萩原賢司1 金井忠雄5 小林亮三4 小宮山勇3 小山洋之介5 小山邦介2 佐藤智彦1 滝沢主計1 竹内啓爾6 武重秀雄2 茅野忠重2 戸部登喜一2 富永馨1 新見武雄2 西野明4 沼田淳1 原田俊一1 前田一人6 水野哲雄2 翠川勲5 宮本嘉興3 宮下芳雄2 柳沢洋一2 山浦一徳2 山浦弘夫2 山内重昭2 山辺孔一6 山辺文雄3 吉村洋一1 渡辺洋一1 菱田誠1 宮原省三2 尾和堅一1 秋山忠利2 大塚頼雄1 石井昭衛2 香山昌一1 工藤俊夫2 小山治弥5 久保田滋1 田中靖二2 山岸茂夫1

【51期】44人 浅野井哲4 荒井信明1 有賀秀雄3 荒井一男1 飯塚寿1 池田義雄2 井出英三郎5 上原隆雄3 上原昴2 小野沢哲夫5 掛川国雄2 蒲生卓磨1 久保田裕8 倉沢直哉4 小池尚古2 児島和人1 清水英明4 清水順2 田村忠男1 中島通明4 永野昭治2 成沢誠司3 西沢毅2 花岡利男4 保坂利勝3 堀内弘栄3 丸山瑛一9 宮川司3 宮島武人2 村田寛1 村山寿男2 山辺俊一 六川二郎 六川博輔2 永井洋司2 石川泉1 青島昭人2 足達健2 龍野勇介2 中島宏3 中山隆雄1 早川正範1 山本晏久2 山形喜昭1

【52期】48人 青柳位紗男3 青木功3 飯塚和男5 生駒利行5 石巻伸夫2 伊藤裕幸1 池田松子3 掛川正司3 掛川十次郎4 川島慎1 古平伸吾1 小島芳次2 小林孝典 小林武彦 小林盛男1 小山堯志2 神津信一3 柴田正人5 新保知右喜5 甲田広行3 関正利2 竹田守夫1 高松健治6 滝沢格3 田口修三郎6 塚田進一4 土屋寛貴2 橋爪今朝男5 浜野シメ2 古川一8 藤井清彦1 松崎義一2 松沢秀雄2 宮島広人2 森浩一1 牧内勝1 矢島寛文2 柳沢孝宣3 柳沢忠3 山口直枝3 柳沢正光1 吉沢正人2 大塚恒雄1 佐藤健一1 武半正一5 滝沢利明2 田中芳夫1 柳沢正昭2

【53期】32人 岩田久1 井沢保2 上原林三2 大塚昌宏2 小野沢光矩5 尾沢正毅2 小林乾泰4 小山哲雄5 甲田育也2 清水公寛1 須田武久1 高木快雄6 塚田靖8 原春夫3 半田喜章5 宮下善郎2 宮入達雄2 柳沢浩二1 柳沢修二2 山岸一夫1 山極省平1 吉村晴夫6 金子節子4 岩崎渉1 池田民雄1 大久保慶次郎5 上原修二1 掛川康夫1 清水聖1 高野政晴2 鍋島堅造2 渡辺百枝1

【54期】74人 有賀俊雄3 伊沢多喜男2 石井政雄1 石原澄江4 磯正泰1 内山良夫4 大日方真3 赤岡貞重2 河西秀夫2 黒川次郎2 小市則夫3 小菅健司4 篠原六司6 後藤人三8 滝沢睦夫1 滝沢義信1 竹花正章2 田村朗1 土屋勝俊 土屋晃一 土屋悟1 成田崇宏3 中村至3 中島隆之2 橋詰守人6 橋田ちせ4 馬場武彦4 浜村希志夫1 馬場雄二3 松井平三4 星野賀永2 丸山恒1 宮崎武男2 柳沢明1 矢花信行1 横沢武典2 横関雅徳3 横沢正一8 宮入裕夫2 金子尚武1 真道茂1 後藤弘3 中村一彦1 神津勝重4 古見喜八郎1 望月源治2 荻原統夫3 市河富弘3 尾和俊介1 小林勝利2 倉島彰1 小堺一雄2 加藤広4 久昌貴代江6 沓掛文哉2 清水等1 皆瀬森夫3 竹重節雄1 滝沢英統1 千村一平2 寺島重暉2 玉野敏雄1 土屋章1 藤村延魚1 深町勝男1 松尾誠1 丸山則夫1 水沢忠夫5 山崎茂幸1 山本大吉郎1 山辺俊二1 柳沢燁1 横山正義1 市河富弘1

【55期】21人 飯島慶三郎2 伊藤典久1 樫野達彦3 清水武雄3 清水源喜2 塚田忠夫4 土屋祐一1 渡野彰1 堀内良幸2 町島正敏1 宮入健二郎2 毛利義範1 和田守3 荒井恒雄1 秋山弘志2 和泉寛人5 杉原積雄5 滝沢克彦10 滝沢哲三1 羽田宏1 宮坂克5

【56期】49人 赤尾信吉4 池内紀雄3 飯高盛龍1 上原清治1 大野和男1 大久保治夫3 大塚明彦5 久保田修1 金井七郎1 小山邦俊2 小平節夫3 小林英郷4 小山荘司6 神津進5 坂田治三郎5 笹沢政道1 白井利彦1 瀬下昌孝5 竹内武1 長坂光登1 長崎哲夫2 中村勉2 中山英之1 西島幹夫1 鳥居次生1 藤原鐵之4 村井弘5 藤沢行雄4 柳沢義孝3 吉池鴻允4 若林克寿3 渡辺善国1 笠原征夫2 小出重五郎1 塩川邦彦1 沢尾明夫3 高寺宏延4 西江広之3 成田邦夫2 永井佳雄1 中村甲治1 新沼惇雄1 平尾充雄2 平野武明4 松井広通1 翠川和彦1 横島庄治1 柳沢安信2 依田幸雄1

【57期】25人 有井毅2 伊藤紘二2 池田教範9 臼田茂二2 大谷光弘1 岡川章夫2 加賀美欣二郎2 神田昇3 小島吉男1 小林恒雄1 滝島聡2 竹内昭3 箱山雍5 保屋野栄一2 前田由美子4 三井宣夫4 宮坂幸雄2 望月英明2 山崎紀典3 横沢武久2 鈴木芳枝1 渡辺浩通1 浅川征男1 白倉憲二2 松原弘一1

【58期】30人 赤池三男3 井沢敬1 伊東啓治6 伊藤文明4 鎌原昭治2 金子親碩1 久保田達夫1 小林俊雄2 小山太郎5 桜井兼三2 城下尚3 杉浦皓充4 滝沢一彦2 手塚洋兵1 寺島紘士3 龍野洋和1 中島秀忠5 林嘉市4 本田祥治1 堀内昭3 宮本忠昭3 宮下秀久3 宮原昭次郎5 百瀬和紀3 荒井公雄1 大井秀三郎3 金井久2 中島勇司1 林忠行2 宮川克彦

【59期】14人 荒井長利1 有賀勝雄2 小山一夫4 柴田武彦1 清水俊博1 田村功2 萩原清人1 藤井彰4 山口元彦1 岩崎忠夫3 川村東2 竹内仁2 山本政道1 山浦健太郎1

【60期】18人 青柳偕行1 臼田久米雄2 荻原英男5 小林秀芳1 尾上朝子3 桜井修一5 田中誠一4 田中良樹1 戸塚武雄5 羽毛田信2 服部興治1 福島宣1 北原英孝4 木下敏郎2 寺島滋1 沼形泰枝1 松林純夫5 柳沢直治1

【61期】13人 井上希代子4 井上剛3 大井剛1 奥村喜美子1 笠井徳爾4 川合宣勝1 玉木純雄2 堀内寿美13 宮島英紀6 三井文人8 小山忠顕5 龍野義尚1 吉田光明1

【62期】15人 秋田勇4 岩井重一10 田島善光1 中野敬三2 中村房子4 塩沢忠彦1 依田欣五郎2 渡辺幸治1 浅井保雄1 桑田博章1 坂井邦章1 正村真治1 羽田啓吾1 黛田政紘2 宮崎信二5

【63期】15人 市村富男2 柏木君雄1 高柳博幸5 武井長久5 荻原英夫2 林壮治3 山本寿美子5 丸山茂樹1 岡森則夫1 岩井幸雄3 金井衛1 田村新俊5 堀内敏文1 山浦善樹9 山浦成子4

【64期】6人 有賀猛1 内川栄久1 金井修治1 清水淳郎1 永井信介3 成沢広行1

【65期】5人 内堀信1 上原昇1 横関洋一1 高畑悟郎1 宮坂真実2

【66期】11人 浅野俊二3 今井郷子2 尾崎幸夫4 片山義1 北沢英男1 清水通男4 田口博4 田中茂5 平野成基1 小林芳雄1 土屋徳芳1

【67期】1人 小林正文

【68期】6人 碓田茂1 杉本真理子5 竹内俊隆1 土屋耕太郎3 小林孝俊1 中島治彦

【69期】5人 関和義1 栃原重文4 鳥羽喜幸4 古畑克巳2 吉村邦彦7

【70期】3人 伊藤彰紀4 金井和生5 渋沢稔1

【71期】6人 小林一輝2 赤木千江子1 碓氷康典2 宮崎勝1 高木繁1 神津政和2

【72期】1人 関博明2

【73期】2人 須貝博1 神津秀章2

【74期】3人 坂口洋三2 清水鶴1 土屋三千夫2

【76期】5人 広田徳明1 堀籠秀直1 柳沢玲一郎1 柳沢千恵子1 金井一正1

【77期】2人 岩崎真美2 倉沢寛1

【79期】3人 戸田有一1 長井喜久子1 長岡秀樹3

【80期】2人 清水茂夫2 山崎敏夫1

【81期】1人 金井教子1

【82期】1人 轟治美2

合計 一〇五八名

基金拠金者

元年十月〜二年三月

【52期】	一万円	生駒利行
【25期】	一万円	馬場長市
【29期】	一万円	宮入武夫
【63期】	一万円	荻原英夫
【46期】	一万円	清水巻郎
【64期】	一万円	永井信介
【45期】	一万円	山辺力
【27期】	一万円	清水俊一
【30期】	一万円	針塚正樹
【51期】	一万円	掛川国雄
【49期】	一万円	高野郁雄
【50期】	一万円	佐藤智彦
【51期】	一万円	清水順
【51期】	一万円	太田幸男
【35期】	一万円	城田賢
【40期】	一万円	吉池一郎
【66期】	一万円	田中茂
【49期】	一万円	牧内泰道
【54期】	一万円	後藤人三
【49期】	一万円	宮下彬英
【50期】	一万円	渡辺洋一
【41期】	二万円	正村吉徳
【52期】	二万円	大沢智昭
累計	五八五万円	

事務局日誌

▼11月13日　会報　打ち合わせ、麹町にて柳澤健(48)、金井久(58)、山崎(48)、深夜まで。

▼11月14日　長野県同窓連、理事会。於健保会館。堀内副会長出席。

▼11月16日　会報"うえだ"校正のため小林会長、柳澤会報委員長はじめ村上(48)、山崎(48)、馬場(54)、小林(60)工場に入る。

▼11月20日　会報42号刷了となる。母校宛、千五百部送る。

▼11月25日　事務局に生島副会長、山崎幹事長、畠山(48)、遠山(49)、池内(52)の業務委員と浦さんが集まり、会報の封入作業完了。

▼11月30日　会員名簿の各期委員の選考を小林会長を中心に完了する。

▼12月8日　東信同窓連の総会。於健保会館。生島、横山、堀内各副会長、村上広告副委員長出席。

▼12月14日　会員名簿刊行に関する役員会議。於事務局。

▼12月19日　幹事会。於健保会館。名簿作成に全員一致で協力することを確認。その後忘年会の集いとなる。

▼1月6日　事務局で初顔合わせ。畠山業務副委員長、柳澤会報委員長、山崎幹事長、各期の名簿委員に依頼状を発送する。

▼1月9日　港洋社の鈴木社長、事務局にて打合わせ。柳澤健(48)、山崎(48)、馬場(54)、小林(60)参加する。

▼1月20日　事務局に名簿整理のため集まる。柳澤廣（44−5）星野（44−4）畠山(48)、山崎(48)、小林秀(60)

▼1月21日　松尾球友会新年会。於上野東天紅。上田から会長、部長、監督が参加される。小林会長以下、役員多数が出席する。

▼2月2日　会員名簿の作成について鈴木港洋社社長と小林会長とが事務局で面談する。

▼2月3日　県同窓連、新年懇親会。於健保会館。小林会長以下、生島、横山、堀内各副会長、山崎幹事長、馬場副幹事長出席。約百三十名の参加あり盛会なり。

▼2月10日　事務局にて名簿の最終的打ち合わせ。小林会長、柳澤廣副会長、柳沢健会報委員長、山崎幹事長、小林秀会報委員が集合。

▼2月22日　名簿原稿を印刷所に引渡し完了する。

▼3月3日　港洋社から初校、再校の原稿が届く。

▼3月9日　名簿の作成状況について小林会長に中間報告する。当初の予定より遅れる見通しとなる。

▼3月22日　OB、クラブの名簿の校正が出来る。

▼3月26日　事務局に副会長集合。役員会議を開く。

▼4月5日　名簿の広告について現状分析のため柳澤健(48)、山崎(48)、小林秀(60)事務局に集まる。

▼4月20日　生島副会長、広告の件で事務局にて打ち合わせ。

▼4月25日　小林会長、生島、横山、柳澤廣、堀内各副会長、山崎幹事長、事務局で役員会を開催。

編集後記

慌ただしく新旧役員の交替がなされ、押し迫った六月二十六日の大会の案内記事等を満載して、なんとか会報43号の発行へこぎつけた。

先の幹事会で、会報は年一回の発行としたい旨の話があったが、現状では仕方のないことか。今後も、会員交流の場となる会報を創りあげていくのは、新役員の課題であろう。校正には、とくに毎回時を惜しまず工場まで出向いていただいた中村礼三（32）先輩に心からお礼を申し上げたい。

（柳澤）